

令和5年度第3回江南市環境審議会

●日時 令和6年2月7日（水） 午後2時00分～午後3時30分

●場所 江南市役所 3階 第3委員会室

●出席委員(13名)

会 長 川 口 邦 彦
委 員 岩 井 喜 美 子
委 員 山 城 英 俊
委 員 栗 本 明 美
委 員 堀 場 敏 之
委 員 宮 澤 恵 子
委 員 尾 崎 敬 代

副会長 加 藤 幸 治
委 員 富 岡 万 揮
委 員 林 本 圭 司
委 員 鈴 木 文 隆
委 員 石 井 進
委 員 谷 口 郁 子

●欠席委員（2名）

委 員 西 村 和 仁

委 員 伊 藤 靖 祐

●事務局

環 境 課 長 相 京 政 樹
環 境 課 主 任 田 口 恵 里

環 境 課 副 主 幹 近 藤 祥 之

●傍聴者数 0人

●資料

資料1・2 新たな取り組み案について

資料3 こうなんゼロカーボンフェスタ（仮称）について

■会議経過

○事務局

みなさん、こんにちは、環境課長の相京でございます。

定刻となりましたので、ただいまより、令和5年度第3回環境審議会を始めさせていただきます。

本日は大変ご多用のところ、お集まりいただきましてありがとうございます。なお、本日の会議につきましては、西村委員と伊藤委員の2名が所用のため欠席されておりますのでご報告をさせていただきます。

それでは、これよりの進行は川口会長にお願いしたいと思います。よろしくお願いたします。

○会 長

皆さんこんにちは。お忙しい中本当にありがとうございます。

早速と言いたいですけれども、少しだけお時間をいただいてもよろしいでしょうか。

今年に入って、能登半島の震災があつて、本当に大変な思いをされてる方がたくさんお見えになると思いますけれども、亡くなった方が240人を超えるかもしれないと言われていて、人が1人亡くなっただけでも大変なことなのに、そういったことがまとまって起きてしまっているという現実が今あります。

で、私たちにできることは何かというと、年配者はお手伝いに行ったとしても、やれることは限られますから、本当にできることっていうと義援金とか、日々の暮らしの中で何か応援できることを、ということになると思いますので、ぜひ皆さんも、何か応援できることがあったら、よろしくお願いたします。本当に、大切な人たちを失った方がたくさんお見えになると思いますのでこの場を借りて、お悔やみを申し上げたいと思います。

もう1つ、私の個人的なお話ということでお聞きいただきたいんですけれども、日本は、震度7の地震がどこにいても起きる可能性があるというのは、皆さんご存知だと思います。そう考えると、東北の震災の時に福島第1原発があんなことになって、メルトダウンした時の被害を考えると、もう本当に何百年もかかるようなことが、今実際日本で起きています。でも、私たちはそのことに本当に目を向けてるかっていうと、どうなんでしょう。

今回の震災があつたときに、地盤が隆起したり、津波も来てます。たまたま原発には影響がなかったというだけで、こういうことを考えると、やっぱり我々審議会委員もそうですし、一般市民の方たちにもそういったことを知っていただく機会ですから、原発が悪いとかそういう発想ではなくて、再生エネルギーに代替的に変えていけないのかっていうのを考えれば、いくらでもあると

思います。水力発電なら、日本は水源が豊富にあるから、小規模の水力発電を利用して電気を作って地産地消していけば、相当エネルギーは減らせると思うし、バイオマスや、あと太陽光発電ももちろんいろんな問題はありますけど有効だと思うし、やはりそういったことを、私たち審議会のメンバーが発信していかないと、いつまでたっても変わらない。今日はゼロカーボンの話も出ると思いますけれども、ぜひ、そういう意識を持っていただきたいということをお願いしたい。

ということで早速、次第1の「新たな取り組み案について」、事務局からご説明いただけますでしょうか。

○事務局

それでは「新たな取り組み案について」説明をさせていただきます。着座にて失礼します。

はじめに、資料1のゼロカーボンの実現に関するロードマップという横長の資料をご覧ください。江南市では、令和5年の2月にゼロカーボンシティ宣言を表明したこともありまして、前回の会議で委員の皆様からいただいたご提案も、脱炭素社会に向けた施策に関するものが多くありました。それについて、市としてできること、またすでに取り組み始めていることなどを示したのがこのロードマップです。

まず、LED照明や太陽光パネルの導入につきましては、去年の10月に市役所本庁舎の改修工事を行いまして、庁舎全体がLED化されました。来年度以降も、小中学校や公共施設など、順次LED化に向けた工事等を進めていく予定です。太陽光パネルの導入につきましては、まず、新しい施設として、令和7～8年度ごろに供用開始を予定しております、多文化交流プラザ、これは現在の老人福祉センターや児童館などの機能を集約したものなんですけれども、その屋上に太陽光パネルを導入する予定で今、関係部署と話を進めております。またその後も補助金などの制度を活用しつつ、順次、いろんな施設に再エネを取り入れた施設改修を行っていきたく考えています。

次にゼロカーボンシティ宣言に係る具体的施策の実施、主にEV関係なんですけれども、今年度は今月公用車として電気自動車を導入予定で、来年度以降につきましても、買い替えなどのタイミングで可能なものから電気自動車に切替を行っていく予定です。

次に、地域単位での環境配慮型商品の普及についてですが、当初のご提案でいただいた、江南市で製造された環境配慮型製品に対して、市の認定ラベルを付与するという案は、市内製造に限定してしまうと、どうしても数が限られてしまいますので、例えばなんですけれども、市内に小売店はたくさんあります

ので、市内店舗で取り扱っている環境配慮型商品というような、少し緩くした括りで、来年度はこうなんゼロカーボンフェスタ（仮称）もごございますので、そういった場を借りて、紹介ブースなどを作って、普及の促進をしていければと考えております。

最後にゼロカーボンアクションの推進につきましては、市のホームページやイベントや環境フェスタなどで、市民向けの啓発を行います。また、ゼロカーボン実現のための具体的な行動としましては、環境省の方から、デコ活というキーワードで推進していくというようなことが発表されましたので、これを軸として、市の新たな取り組みとして、「デコ活推進プロジェクト」と銘打って市民向けの周知を行いたいと考えております。詳しくは次の資料2をご覧ください。

まずデコ活とは何かというところですが、正式名称は「脱酸素、脱炭素に繋がる新しい豊かな暮らしを作る国民運動」といいます。その愛称として、昨年7月に環境省の公募により決定したのが「デコ活」という言葉です。

このデコ活の目的としましては、脱炭素社会の実現のために、一般市民、特に若い世代に向けて具体的な行動を提案していくというのが一つの大きなテーマになっています。国の目標では、CO2 排出量を 2030 年度までに、2013 年比で家庭部門では 66%、会社などの業務部門では 51%の削減という大幅な削減目標を求めています。しかし調査結果にもある通り、一般市民で「脱炭素という言葉を知っている」人は9割を超えておりますが、10代20代では、「正直何をやるべきかわからない」だとか、「貢献できる具体的な瞬間がない」というような人が6割以上いるなど、脱炭素について認識はしていても、具体的に何をしたいのかわからないという人が多いことが見て取れます。そこで今より生活がより豊かに快適になり、同時にCO2削減もできるような新しい暮らしを具体的に提案・推進していくことにより、社会全体で脱炭素社会を実現しようというものです。

資料2-1のイラストをご覧ください。こちらが「新しい豊かな暮らしの10年後」というイメージです。それぞれの項目で右上にトロフィーマークがついているんですけど、それぞれの項目によってこのトロフィーマークの中の星の数が違ってきます。費用がかかったり、導入できる機会が限られるような、例えば太陽光発電や電気自動車は星が3つ、逆に誰でも取り組めるような生活に根差したもの、例えばごみの分別削減ですとか、自転車・徒歩移動などが星1つという形になっています。また、それぞれの項目には、実行することにより、年間で削減できる金額や時間などが示されています。こういった具体的なメリットをわかりやすく示すことで、少しずつでも多くの人に脱酸素に向けた取り組みに参加してもらえよう進めていくのがデコ活の目的ということに

なります。

資料2の裏面をご覧くださいと思います。江南市は昨年2月にゼロカーボンシティ宣言を表明いたしました。ゼロカーボンシティの実現のためには、行政だけではなく、民間の事業者や市民の方の協力も必要不可欠になります。そこで主に市民の方向けに、環境に関する意識啓発のために、市としてデコ活推進プロジェクトとして推進をしていきたいと考えています。なのでゼロカーボンシティ宣言を実現するための一つの手段として、このデコ活を推進していくというような位置付けです。

では具体的にどういったことを進めていくかといいますと、まず1つ目は、江南市として「デコ活宣言」を行うということを考えております。デコ活宣言というのが環境省のデコ活のサイトから宣言できまして、それをすると、環境省のデコ活のポータルサイトにデコ活宣言を行った自治体として江南市の名前が掲載されます。そして、江南市のホームページにも、デコ活宣言をしましたというページを新たに作成しまして、そこでデコ活についての詳細や、環境省のリーフレットなどを紹介しまして、地球温暖化防止と、省エネに関する情報を発信する場として活用していきたいと思っております。

それに関連して2つ目が、デコ活脱炭素に関する情報の提供と仕組みづくりです。環境省が推進しているデコ活アクションとゼロカーボンアクション 30というのを、資料2-2、3として添付をしておりますので、そちらをご覧ください。例えば資料2-2はデコ活のパンフレットで、裏にはデコ活アクションとして、住まいや移動など、それぞれのシーンで実行できるような行動が示されております。次に資料2-3のゼロカーボンアクション 30 というところでは、分野ごとに分けてもう少し詳しく、具体的な取り組みが挙げられています。

また、県や市では、県民や市民向けにインセンティブというかお得感がありつつ、環境にも貢献できるような事業がそれぞれ展開されておまして、例えば次のページの資料2-4ですね、これは愛知県のエコアクションポイント事業といまして、加盟店で生活用品や文房具の詰め替えを購入したり、コンビニなどでお弁当を買ったときのプラスチック製のカトラリーを辞退したり、そういった環境にやさしい行動をしたときにポイントが溜まっていきまして、ポイントを集めると、クオカード等の抽選に応募できるというものです。

次に資料2-5が、江南市が10月から運用しておりますタベスケという食品のマッチングサービスです。飲食店が期限の近くなった商品や多く作りすぎてしまった商品などをシステムに登録し、通常よりも少しお得な価格で販売するもので、お店側は、そのままでは売れ残ってしまう商品に買い手がつくことで食品ロスを削減することができますし、逆に購入者側は、商品をお得な値段

で購入することができたり、今まで知らなかったお店を新しく知ることができるようサービスになっています。

どちらも利用者にメリットがありつつ、さらに環境にも貢献できるという取り組みなんですけれども、残念ながらまだ一般への周知が十分でないような部分もあります。またデコ活アクションや、ゼロカーボンアクション 30 についても、現状ではそれぞれのキーワードで検索しないとホームページが出てこなかったりして、環境に興味を持って調べようと思ったときに、情報が集めにくいという印象を受けます。

そこで、こういった情報を江南市のデコ活宣言のページで一括して掲載することで、より市民が情報にアクセスしやすくなるのではないかなと思います。またホームページだけではなく、市内で行われる環境の啓発キャンペーンやイベントなどの場において、こういった情報の周知や、環境に配慮した商品の紹介などをしていくことを予定しております。

一旦資料 2 に戻っていただきまして、最後に、ゼロカーボン推進設備の導入促進です。太陽光発電設備や蓄電池は脱炭素社会を目指す上では欠かせない設備ですけれども、やはり一般家庭に導入するには、ある程度まとまった金額が必要になりますので、少しハードルが高いという面もあると思います。そこで江南市では現在、愛知県との協調補助によりまして、蓄電池単体には 10 万円、いわゆる ZEH の住宅には 16 万 2800 円の補助金を交付しております。この補助金制度を引き続き周知をしていくことに加え、ZEH 住宅の補助対象範囲の拡大や、蓄電池の補助金の増額についても、今後前向きに検討を行いまして、ゼロカーボン推進設備の導入に対して促進を図っていきたいと考えております。

以上が江南市デコ活推進プロジェクトのついでの説明でございます。まだいろいろと検討途中のものもございますし、委員の皆様からご意見をいただければ、それを踏まえて、さらによりよいものに改善していければと思っておりますので、よろしく願いいたします。事務局からの説明は以上になります。

○会 長

ありがとうございました。

今の説明で 10 代、20 代の方たちが脱炭素についてよく分からないという話がありましたけれども、そういった方たちに向けて何か周知などできるようなことがあれば、それも踏まえて意見を言っていただけると嬉しいかなと思います。何か質問がございましたら、発言いただけますでしょうか。

○委 員

ストップ温暖化キャンペーンというのをずっと長い間、10年以上続けてきておりますけれども、その活動の中でも、市民を対象にしてスーパーなどでアンケートを取ったりしてきましたが、なかなか生活と結びついて行動に移すというような雰囲気になりにくくて、どうしたらいいかなと考えながら活動してきております。さらに国が推進しているデコ活を進めていこうと思いますと、やはり思い切った取り組みをしないと中途半端で終わってしまうのではないかと思うのですが、その思い切った活動というのが、市民、企業も含めて、どんなことができるのかなと、ふと思いました。デコ活の取り組み内容についても、若い人は簡単にできそうなもの多くても、年配の方にとっては難しかったりして、やれないと参加できないのだろうかとか、そんなふうに思っていました。

やっぱり江南市はゼロカーボン宣言をしましたので、何か思い切った施策が必要かなというふうに感じております。

○会 長

ありがとうございます。他にどなたかございませんでしょうか。

もし、この場で難しければ、またご自宅で資料など読んでいただいた後に、個別で事務局にお話いただいても結構ですので、お願いします。

○委 員

少し自己紹介というところで、SDGsファシリテーターということで、カードゲームを通して、私たち人間一人一人がこの地球に携わる生物の1つとしてどういう関わり合いを持っているかというのを、ロールプレイングゲームをして学んでいくというような講師をさせていただいた縁で、審議会委員として参加させていただいています。

また、カラフルコンテナという会社を経営しております、そちらはコンテナハウスの建築設計がメイン事業ですが、一方で、耐震シェルター等、江南市や愛知県、東京都の方にも、防災の企業というふうにも認識いただいでいて、来週石川へ行ってきました。そちらの現地を見つつ、例えば江南市が今後もし被災してしまった場合、私たちがこの環境審議会委員として、もちろんゼロカーボン等も考えていかなければいけない中で、少し防災の面も含めた観点で、今後お話を進めていく場面もあればいいかなと思っております。よろしく願いいたします。

今、こうなんタバマルシェや愛知県が行うエコアクションポイントも、とても素晴らしい取り組みだと思っておりますが、周知がまだ足りないということで。やはり、啓蒙という部分でいけば、私たちがどれだけ危機感を持って、1つ1

つの小さな行動、例えばペットボトルを分けなければいけないだとか、ペットボトルが再生利用されるからなるべく綺麗に戻そうね、というように、グローバルの考えからローカル、小さなお子さんにも気づいてもらえるような部分を、家庭でもいろいろ教えてもらうような場面づくりが大切なのかなと思っております。

その方法もいろんなやり方があるんですが、なるべく行政の負担にもなりすぎないように、そして市民の方々にも難しいとか取っつきにくいとか思われないうちに啓蒙活動をしようとする、なかなか難しいところがあります。大きなことをやろうとすると、それだけ人や物、時間が必要ですが、一方で、小さな動きからというところで私から1つ要望があります。

先日、久しぶりに映画館で映画を観てきたのですが、江南市にも、昔は映画館がありました。なかなか難しい部分もあると思うんですが、例えば映画上映会のようなものを定期的にやるだとか、布袋の図書館もありますので、定期的にあそこに行けば、環境の話や防災の話ができるような、せつかく公共施設がありますので、そういった場所で、祖父母と孫や、親子だとか、そういう家庭での啓蒙活動に繋げていくということも、1つのアイデアとしてあるのかなというふうに思っております。

○会 長

ありがとうございました。他にありますか。

○委 員

今、委員さんがおっしゃったように、今現在、こういったことをやろうとしても、やはり周知が難しいというところがあって、これは江南市ばかりではなく、全てにおいて、知らなかったとか、補助金があったことも知らないとか、そういったことを啓蒙しようと思うと、今おっしゃったように定期的に発信していくことが大切かと思えます。

それからもう1つ、先ほど建築関係の話が出ましたが、建物も省エネルギー関連では太陽光発電設備の設置が義務化される自治体もあり、それを全部計算して提示する義務が出てきて、建物建てる時にはそういった指導があります。行政でいえば建築課なんですかね、そういったところが啓蒙をしていただくといいのかなと思いますし、それから、全体的に考えたときに、やはりこういうことをやってるよということをホームページに載せたとしても、どこを見たらいいかわからないとか、どうやって皆さんに知らせるかという課題があります。

それからもう1つ、いま布袋で頑張ってる人がいるんですけども、それは防災井戸の関係なんですけども、自治会に資料を渡したりしたけども、ほとんど協力

してくれないというんですよ。でも、布袋だけとは、かなり頑張ってる人がいるんですよ。だからそういう人たちをもう少し、市の方でも啓発に取り組んで、何か定期的にやらないと、なかなか伝わらない。

それから、エコアクションポイントやタバスケなど店舗でのキャンペーン関係でも、例えばお店の人たちが定期的にどこかで、そういったことを話していただくとか、やっぱり皆さんで共助の関係でやっていかないと、せっかいいことをやっても知らないっていうことが、どこの市町村でもあるんですよ。だから、そういうことをもっと知らせたいという人がいても、なかなかそれを行政だけではできないとなると、民間の店舗関係とかいろんな人たちにも、協力を得なきゃいけない。

例えば、昔犬山というのは、ほとんど今みたいな形ではなかったんですよ。その時に地域協働に積極的な方がいて、その人たちがかなり啓発しながら若者を取り込んで、やっぱり犬山というのは、もともとお城があるんだという自負がありますが、例えば江南市でもいろいろとあると思うんです。だからそういう人たちが使命感を持ってくれると、そこから色々と引き合いが出てくるのかなと思いますので、皆さん行政でやってください、行政でやってくださいっていうのはよく言われるんですけど、なかなか行政のやれる範囲内とそうでないことがありますから。だからお互いに自分たちができることをやって、できないところ、行政でお願いしなければいけないところをお願いしながらやっていかないといけないのかなと思いますし、特に私も違う市に住んでますから、細かいことはちょっとわからないんですけども、やはり皆どこもそれで困ってるんですよ。自分のところをどうやって活性化しようとか、企業が来てもらわなきゃ、とか。どうしたら企業に来ていただけるかと、色々と知恵を絞りながらやってる自治体もあります。やはり、民間の力をお借りしなきゃいけない部分もあると思いますので、ぜひそういう形で何かしていただける方法があればと思います。

○委員

デコ活という素晴らしい活動を宣言されるんだと思うんですけども、どうも市民の方に訴える力が少ないんじゃないかと思うんですよ。資料の、脱炭素につながる新しい豊かな暮らしの10年後というのがありますよね。例えば設備投資を伴うような太陽光発電とか住宅の断熱化とか、次世代自動車、これはなかなかお金もかかることだし簡単にはできない。市民の方をお願いするということとなると星1つのものですよ。ごみの削減分別、省エネ家電をできるだけ選ぼう、節水をしよう、など。そういう行動を市民の方をお願いするような標語を市のほうでつくとか、そういう形で訴えないと、市民としてはなか

なか分からないということがあるかと思うんです。そういうことを検討していただくとうれしいなと思います。

○会 長

ありがとうございました。他に何かございますか。

○委 員

今、市役所でフードバンクをやっていて、これまではロビーでやっていたのが、今回初めて環境課の窓口でやってくださってるんですが、先ほど見てきたら、どこにあるのか全然わからないんですよ。私もちょっとだけ持ってきましたが、先ほどから言ってらっしゃるように、もっと大きくやらないとわからないんじゃないかと。それから、PRをすと言っても、フードバンクもすぐ定着してきたのに、あれほど縮小しちゃうと、もったいないなっていう感想です。

それから、石川能登の震災では、多くの被害がありました。そこで私は何ができるのかなって考えたら、何かを買って、ほんのわずかですけれども、その売上が届けばいいかなって思って、高島屋でお菓子を買って参りました。先日も、テレビで石川産の商品の特設コーナーがあるというのを見たので、友人と行ってきたんですが、どこにあるか分からなくて店員さんに尋ねたら電話で確認してくださって、やってませんと言われたんです。なので諦めて家に帰ってきたら、ちょうどまたテレビでやっていて。地下1階でやっていたんですが、てっきり特設コーナーで大きく表示が出ているのかと思ったら、あちこちの特産品が並んでいるなかに混ざっていて、全然分からなかったんです。だからやっぱり、ホームページやら広報に載せてもあんまり良く分からないし、きちんと大きく表示をしてほしいと思います。市の活動も、1回では結果には繋がらないかもしれないけど、気長にやって、少しでもみんなの胸に刺さるようなことができたらいかなと思います。

○委 員

皆さんのお話を聞いて、私が最初にSDGsってという言葉を知ったきっかけを思い出しました。2017年頃ですかね、江南のまちおこしのイベントで、藤の市というのをやりました。商店街がシャッター街になってしまったので、それを元気にしたいなということで、2年ぐらい、締まったシャッターの前を借りて、マルシェをやったんですけれども、その時にいろいろ商店街まちおこしたいなのを調べていた時に、北九州の方でSDGs商店街ってというのがあって、SDGsってなんだろうと思ったのがきっかけだったんですが、その時はまだ

あまり世の中にはSDGsという言葉が知られていませんでした。その商店街が、それぞれ地産地消ですとか、ごみが出ないような取り組みをしたりとか、江南の商店街も本当はこういうSDGs商店街になればいいのになあと思っていたということを何年かぶりに今思い出しました。

皆さんがおっしゃっていたように、継続的に行わなければいけないと思います。私も一昨年、すいとぴあでSDGsエキスポというのをやらせていただいたんですけども、その1回はすごく集客力もあって、一気にいろんな人に知っていただくきっかけにはなるんですけども、継続が大事だということをすごく実感しています。やっぱりこういう取り組みは、継続的に訴えていかなければ、続けていかなければいけないなと思っていて。なので、商店街とかはどうですかね、江南の商店街はちょっと寂れているのでなかなか難しいところはあるんですけども。常にそういうことをやっている場所があるということが大事で、あと若者はそういうの大好きなので、やっぱり今の話で20代とか30代に訴えかけていきたいけれども、なかなかその世代を動かすのは難しい。イベントとかデコ活とかいう言葉とか、あいちエコアクションポイントでポイントを集めるとかっていうのも、なかなか若い世代に動いてもらうのは難しいです。そういう常にやってるすてきな商店街があればいいななんて思いました。

○会 長

ありがとうございました。

大須なんかはそうですね、一旦寂れたけども、復活してますもんね。江南市だってやろうと思えばできると思うし。まあ、いろんな取り組みがあればいいと思うんですけども、他にどなたか意見がございませんでしょうか。

○委 員

ごみ減量の方の委員もやっておりまして、危機感を持つるのは家庭から出るマイクロプラスチック問題です。プラスチックは自然に光で、だんだん小さい微粒子になってしまっていて、本によると、今では大気中に浮遊したり、南極やグリーンランドの氷の中とかにも発見されてるところがあるそうです。だから、できるだけマイクロプラスチックを減らすために、各家庭で取り組んで欲しいという気持ちがあるんです。それも、デコ活と一緒にだと思ってくれんですけども、市民の方への標語とかお願いっていうか、真摯に市の方としては努力しますよと。それで結局市民がそういうことに対してどれだけ答えてくれるのかわかりませんが、一応最初に行動を起こさないと、その先が進まないという気がしますので、それもあわせてお願いできたらなと思います。

○会 長

ありがとうございました。

多分、プラスチック問題は、コストの問題がかなり大きいと思います。プラスチックに代わるものは多分あると思うんだけど、コストが全然違うからっていうのでなかなか普及しない。でも、じゃあ命をお金で買えますかって考えると、もう本当に真剣に考えないと。多分生き物の体の中には生物濃縮もしてまますから、ちょっと怖いですね。

プラスチックの話はまた今度にしますけど、とりあえず意見として聞いておいてください。

○委 員

プラスチックは、ある説によると、もうすでに我々は1週間にクレジットカード1枚分のプラスチックを体の中に入れていているという話も聞いたことがありますし、非常に切実な問題だと思います。

話をちょっと元に戻して、脱炭素についてですが、江南市はゼロカーボンシティ宣言もしておりますし、やはりこちらが非常に大きなテーマだと思います。江南市がこうやってゼロカーボンシティ宣言やデコ活宣言をして一生懸命やっているということになるべくPRしていくべきだと思います。ただ、やはりゼロからお客さんを集めてやろうとすると、実際にはすごいエネルギーがかかります。なので、なるべく既存の組織や既存のプログラム、そういうものを活用することを考えていったらどうかなと思います。江南市として、脱炭素も決して江南市だけでやってどうなる問題でもないんですけど、江南市として宣言をしたからには、やはりなるべく効率的にやるためには、既存の組織や、いろんなシステムを利用してやるのが非常に有効かなと思います。

○事務局

環境課の方から、皆さんのご意見を承ったうえで、いろいろと考えるべきところがあるなというように感じましたので、少しお伝えをさせていただきます。

まず整理させていただきたいのが、デコ活宣言はこれから内部的に協議をした上で進めていくという位置付けです。ゼロカーボンシティ宣言は表明しました。そのうえで、市民、事業者、それから行政、3者が連携する中で、そのうちの市民がどのような活動をしていくかというところをわかりやすく示すために、デコ活宣言をする、と捉えていただくといいと思います。

そこから市民に対して、今いろいろとご提案いただいた映画上映であったり、既存の組織を使ったイベントなどをフル活用して、市民に対してまずはソフト

面で、行動変容ができるようなきっかけを作っていきたいということで、エコアクションポイントだとか、タベマルシェだとか、イベントでの普及ということにまずつなげていけたらいいかなと思っているところです。

委員の方からもご提案がありましたように、例えば標語だとか、江南市独自のロゴマークだとか、そういったものを公募して作っていくっていうのも面白いのかなと思います。また、ソフト面に加えてハード面の方も当然必要になってきますので、そちらについては、太陽光発電設備の補助であったり、蓄電池の補助などを強化していければいいなと思っています。

ハード面に関して言いますと、昨年から今年度にかけて、エアコンと冷蔵庫の買い替え補助を、それぞれ 600 万円ぐらい予算計上して実施したんですけれども、市民の方にはかなり好評でして、すぐに枠が埋まりました。そういったところも予算の範囲内ということにはなりますけれども、積極的にやっていければいいなと思うところです。

やはりどうやって周知していくかという点で、先ほど、フードドライブの縮小が残念だというお話もありましたが、私の考えとしては、ロビーでの展示は今まで通りで、受付場所だけが環境課窓口に移るというイメージをしていたんですけれども、ちょっと展示自体が縮小してしまったかなというところがありますので、そこは今回の反省を踏まえて、また見せ方、表示の仕方というのを検討していきたいなと思います。

結局、デジタルとアナログの両方で周知していくっていうのが大事だと思っています。アナログというのは現場に行かないとわからないですから、これからの時代はやはりデジタルも大事だということで、今はホームページも活用しています。今現在も、ホームページとメール、LINEなどもフル活用して周知はしているんですけれども、さらに踏み込んでというところが課題だと感じております。

○委員

ありがとうございました。

エアコンなどの買い替えの補助金に対してすごく人気があったということで、そのお話を聞いて少し思いついたことがあります。また来年度、家電の買い替えの補助金をされる場合、応募に対してすぐ補助金を交付するのではなくて、例えばエコアクションポイントと絡めて、じゃあこれをやってから、あなたは100ポイント集めたから補助金を交付しますというような。そうするとダブルで、しかもそこまで手がかからないという部分は、両方にとっていいのかなというふうに思った次第です。

○事務局

その通りでして、実はインセンティブがないとなかなか行動できないっていうところで、エコアクションポイントだとかの発想になってるんです。ポイントを貯めて何かもらえるよ、だから行動しましょうねというところが、おそらく人の心理として一番大きくて、それに頼らざるを得ないっていうのが現状なのかもしれないです。なのでそういう意味では、今の発想は十分ありだと思います。

○会 長

ありがとうございました。

やっぱり、やるべきことをやるならニンジンをぶら下げていただくっていうのが一番効果的かもしれないですね。

私の方から少し意見を言わせていただくと、今たまたま区議員をやっているんですけども、区議員っていつもきゅうきゅうしてて、次の委員を選ぶこととか、ごみの立ち番をどうするかとか、話がそういうことばかりなんですよ。でも本当は区の役員っていうのは、市がどうなっていくべきかっていうのを考えて、それを持ち寄って区長が代表して市に提言するみたいな形がベストだと思うんですが、それが全然できてない。

それで、周知するのに、やっぱり市の方から、デコ活とは一体何かとか、多分SDGsもまだ分かってない人が結構いると思うから、そういうのを、区の役員だけではなくて、組長に下ろして組長から組の人達に下ろすみたいなことをやっていかないと。どこまでいっても、申し訳ないけど、いくら広報をつくって読んでくださいって言っても、ほぼ読まない、そういう現実があるっていうことも知っていただいて。例えばですけど、デコ活やエコアクションポイントとかも、例えばお祭りで子供たちがもらえるお菓子を袋がないものにするとか、いくらでもいろんなことができると思うんですよ。だから、そういう細かいことを積み重ねていかないと多分、本当に大きなことにはなかなか繋がらない。ぜひ、そのあたりも一考いただけると嬉しいかなと思います。

他にどなたかご意見ございますか。

○委 員

今、区の役員とか、自治会の役員会だとか、地域によって違いますけども、やっぱりいろいろ下積みでやってる人が結構いるんですよ。だけど、それで自分たちが蓄えた資料とかそういうものを区や役員に出しても、協力をほとんどしてくれないという苦情をよく聞きます。私は江南市民じゃないけれども、そういうことをやっている人から聞くと、一応資料は渡すけど全然動いてくれ

ない、だから自分がやってる地域だけは一生懸命やりますよと言ってやってる人もいます。

ですから、もう少し区と役員の人と、それから市がもう少し色々なことを周知できるような体制というのを何かの形でつくらないと。一生懸命やって、資料も渡しても何も動いてくれないってなったら、だんだん、じゃあ他はどうでもいいやってなっちゃうんですよね。だから、やはり市がある程度、区や役員に対してももう少し何らかの形で、協力の要請をしたほうがいいかなと思います。下積みでやってる人って、もう 10 何年とか長年やってる人がいるんですけど、やっぱりそういう人たちの行動とか厚意を持ち上げていかないといけないと思うんです。そうすれば、会長さんがおっしゃったように、色々なことも周知できるような形にしていただければ、江南市もより良くなっていくんじゃないかと思いますので、ぜひ、ご検討していただければと。

○会 長

ありがとうございました。

他にありますか。

今日この場ではなくても、また事務局を訪ねていただいて、雑談がてらそういう話をさせていただいても構わないとは思いますが。今日資料をいただいて、すぐ答えを出すのはなかなか難しいと思いますので、またよく読んでいただいて、機会があれば、環境課の方に出向いていただけるとありがたいなと思います。

時間も限られていますので、次第 2 の、こうなんゼロカーボンフェスタ（仮称）について事務局より説明をいただきたいと思います。

○事務局

それでは、こうなんゼロカーボンフェスタ（仮称）について、着座にて説明させていただきます。

これまで市では、環境について楽しみながら学び考えることができる、参加体験型のイベントを開催することにより、地球温暖化防止、自然環境の保全等の環境問題に対する市民の理解を深め、環境保全の意識の高揚や環境行動の実践につなげることを目的として、環境フェスタ江南を平成 17 年～令和元年まで、15 回実施をして参りました。令和元年以降は新型コロナウイルス感染症の影響で中止せざるをえない状況が続いておりましたけれども、昨年新型コロナウイルス感染症が第 5 類に移行されたこと、また、来年度は市制 70 周年ということもあり、70 周年の記念事業といたしまして、こうなんゼロカーボンフェスタを令和 6 年 10 月 20 日（日）に、すいとぴあ江南での実施に向けて現在調整を図っているところでございます。

ゼロカーボンフェスタの内容や規模をイメージしていただくために、参考資料として、以前すいとぴあ江南で開催した際の環境フェスタ江南のチラシと、昨年、愛知県の国際展示場において開催されましたSDGs愛知エキスポのチラシを添付しております。次回のフェスタでは、例えば環境やSDGsに造詣が深い方や、江南市にゆかりのある方などに講演やディスカッションをしていただいたり、また、企業や学生、NPO団体などが実施している、ゼロカーボンに繋がるそれぞれの取り組みについて、各ブースでの紹介や、その他様々なイベントを実施することで、環境について楽しみながら学ぶ機会が創出できればというようなことを、SDGs愛知エキスポのようなイベントを開催できるよう、現段階では非常に抽象的ではありますが、考えております。

具体的なゼロカーボンフェスタの企画運営につきましては、来年度になりましたら、実行委員会を立ち上げまして、委員会内で協議を重ねていく予定でございます。こうなんゼロカーボンフェスタに対して、環境審議会員の皆様からのご意見・ご要望につきましても、そちらの実行委員会内で情報共有の方をさせていただきたいと考えております。ご意見等につきましては、本日の会議内もしくは会議後でも構いませんので、事務局まで、いつでもご連絡をいただきたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

事務局からの説明は以上となります。

○会 長

ありがとうございました。

ただいまの説明につきまして、何か質問等ございましたら、挙手にてお願いします。

○委 員

この環境審議会のメンバーにも、イベントの運営にすごく長けてる方がいらっしゃると思いますので、ぜひ、フェスタについてもメインアドバイザーとして助言を求めると、今までいくつもイベントを作ってきたので、来年のフェスタに対してもすごく力添えしていただけたと思います。

去年のSDGs愛知エキスポについてですが、あまり賑やかじゃなかったと聞いたことがあります。SDGsがスタートしたのが2017年か2018年ですから、まだ4～5年というところで、すでにもう下火になってるのか、もしくは企業さんがそこまで儲けに繋がらないと判断したのか、実際に行ってらっしゃった方がいれば、この場で、来年の70周年はこういうふうにしたほうがいいんじゃないかというのを皆さんと少しでも共有していただけると、今日のこの議題を上げた意義があるかなと思いますので、お願いします。

○委員

2022年のSDGs愛知エキスポに江南市がブースを出されて、一緒にブース作りを手伝わせていただいたんですけれども、実は個人的に2021年、開催1年目に遊びに行った時はすごく活気があって、出展ブースの方もすごく自発的に活動されている方ばかりで、学生さんもたくさん出展されていて、とてもにぎやかだったんですけれども、去年行ったら、来ていたのはほぼ関係者、出展している企業の関係者とかでした。特に自分が行ったのが金曜日で平日だったというのもあるかもしれないんですけれども、今年の2023年もどうやら聞くとところによると、人は少なかったということなので、ちょっとSDGsという言葉がもう慣れてきたっていうのと、新しい感じがなくなってしまったのか分からないんですが、もしかしたら来年はやらないんじゃないかなと予想しているぐらいなので、1回、入場者数を調べてみたほうがいいと思います。年々何人ずつぐらい減ってるかっていうのと、あと、令和元年まで開催されてた環境フェスタは、大体、来場者数はどれぐらいかとか。

ちょっと心配なのは、こうなんゼロカーボンフェスタという名前で、お客さんが行こうと思うかな、というところなんです。まず小学生とか親子にたくさん来てもらわないといけないかなと思うと、名前って大事だと思うんですけど、ちょっと不安ですかね、インパクトが弱いというか。多分、ゼロカーボンって言葉を入れたいという意向なのかなとは思いますが。

何かもっとインパクトのある名前の方がいいんじゃないかなと思います。

○会長

タイトルはまだ決まってないですね。

○事務局

そうですね、名称としては決まってないんですけれども、一応ゼロカーボンシティ宣言をしたということの認知を高めるということをどうしようかっていうところで。皆さんの印象として、何のお祭りなのかわかりにくいっていう反応があるのであれば、サブタイトルとして入れるという形でもいいかもしれません。

○委員

またちょっとハードルが上がっちゃうかもしれないですが、ゼロカーボン宣言をした江南市が送る〇〇、とか。

○会 長

言ってみれば、環境フェスタって、フェスタっていう名前がネックなんですよ。お祭りなんですよ、基調講演もないし、パネルディスカッションもないし。だから本当に環境のことをやってるんじゃないって、環境について何かいろんな形で関わってる人達をたくさん集めてブース展示などを行ってきた。だからその辺も実行委員会がどういうふうにやっていくかは分からないですけど、難しいところですよ。

○委 員

2021年に、自分が主催で、すいとぴあでSDGs江南エキスポというイベントをやったんですが、その時も、結構勇気があるネーミングつけたね、なんて言われたんですけど。なので、使うセロハンテープ1つにしても、全部土に還るものにしたりとか、やっぱり詳しい方とかも来るので、そういう道具とか何かから何まで、全てに気を使って開催しました。

○会 長

実行委員の選定はどこの課がやるんでしょうか。

○事務局

環境課になります。

○委 員

公募もあるんでしょうか。

○事務局

そうですね、その方がいいかもしれませんね。そのあたりはまだ決まっていないので、これから検討していきます。

○委 員

以前、環境フェスタのお手伝いをやったんですけども、その時の会長さんは5,000人以上集まれば成功で、人数が少ないと不成功だとおっしゃっていました。なので、どうやって成功させるかという、それだけ魅力的な要素をつくる。要するに景品をいっぱいもらえる、それから学生さんの寸劇をやらせよう。そういうことをやって、できるだけ人が集まるようにせよ。それに合わせて、ウォークラリーで環境問題について子供たちと親に学んでもらうという形でやりました。

要するに最初の発想は、ウォークラリーなどで環境の意識を高めるといことななんですけれども、どうやって人を集めるかというのは難しい問題で、それ相応の魅力がないと人は来ないということで、そういう形で努力してましたね。

○事務局

60周年の時は2日間開催してましたが、2日間はなかなか難しくなっているというところがあって、今回は1日開催で考えてるんですけれども。

70周年の記念事業というのを念頭に置いていたので、1回目か2回目のSDGs愛知エキスポに私も参加しまして、現場は確認してます。委員さんが言われたように、確か1回目のときだったと思うんですが、すごく活気があって、学生さんたちが一生懸命説明してるのを私も聞いて、ちょっと感動したんですね。なので、学生さんたちにも出展して欲しいなという思いがあったり、あとは企業の方もそれぞれそれぞれの取り組みがあると思いますので、地元企業を中心に、というところが出展の中心になるのかなあというイメージを持っているという状況です。

○会長

どなたか他にご意見はありますか。

○委員

こうなんエコチャレンジ推進協議会というのがありまして、そこで3月16日に、アピタ江南西店さんでストップ温暖化キャンペーンのイベントを開催いたします。その時に、ゼロカーボンシティ宣言をしている江南市ということもPRするコーナーがあるといいということで、事務局の方にお伝えしました。やはりいろんな場所で知らせていかないと、ゼロカーボンはなかなか取っつきにくいというか、分かりにくいので、チラシもありますし、ホームページにも載っていますので、ぜひ委員の皆様も足を運んでいただければと思います。

その1週間前の3月9日の午後にも、キャンペーンとして、ポケットティッシュに家庭でできる温暖化対策を添付したものを配布しがてら、16日のイベントの紹介もしていきたいと考えておりますので、ぜひ、3月16日、アピタ江南西店さんの方へお足を運んでいただければと思います。

○会長

ありがとうございます。他にご意見はありますか。

○委員

過去に環境フェスタを開催したときの状況を、皆さんにお話させていただければと思います。当時、60周年記念の環境フェスタは、廃棄物減量推進委員会というものがあまして、そちらが主体となって実行委員会を設けて開催していました。その中で、環境審議会も1つのブースを設けて環境フェスタにご協力をいただいております。

それでこの当時は土曜、日曜の2日間にかけて行っておりまして、来場者数は当初、2日間で4,000名~4,500名集めるという目標を設定しておりました。それで来ていただいたお客さんには、ボックスティッシュをお渡ししました。そのボックスティッシュは、廃棄物減量推進委員会の展示ブースを設けておまして、そこでアンケートにお答えいただいたお客様にお渡ししておりました。それで、1日目の土曜日にボックスティッシュがなくなるほど来ていただきまして、人数にして、2,700名。それで、2日目は日曜日だからボックスティッシュを多く用意しなきゃいけないと準備に取りかかりましたが、当時のフェスタではカレーうどんを昼に500食用意しておまして、来ていただいたお客様で、所謂マイ箸を持ってきたお客さんには、優先に券を渡す。マイ箸のないお客様には割り箸を出して、とやっております、500食用意したカレーうどんが1時間もしないうちになくなってしまいました。非常に好評ですね、土曜日にいらっしゃったお客さんが、フェスタへ行くとカレーうどんがタダで食べれるよということで、2日目は、来場者数が3,000名を超えました。

それで、時間は午前9時から午後3時半ごろまでのスケジュールで開催したのですが、さすがに3時半になると、10月で日没がやや早くなってくるということで、皆さん早いとこ帰られるんです。それが終わってから役員の方が後片付けをするということになりますと、もう5時や5時半になってしまうということで、60周年記念の当時は2日間やっておったんですが、数年後に、1日と言う形に変えました。

1日で開催した場合も、環境フェスタというものはやはり行けば何か得するものがある方がいいということで、ちょうど今、市役所でやっているフードバンクを環境フェスタの一環としてやりまして、家庭で眠っている、あるいは家庭に余っている食品を環境フェスタに持ってきていただければ洗剤をお渡しするとか、そういった工夫をしまして、来場者数が1日で2,200名ほどに戻ってきました。そういったことで、この環境フェスタというのは、やり方によっては、この名前でも再度お客さんにPRすることができるだろうと。その中の1ブースとしてSDGsのPRを行えば、成功に持っていけるんじゃないかなと思います。ただし、誰が実行委員となって推し進めていくのか、そういったところの実行委員のお力添えによるものだと思います。

○会 長

ありがとうございました。他にご意見はよろしいですか。

○委 員

学校の方も、特に愛知県では愛知学校教育ビジョン2025というものがありまして、その中でもSDGsについて関連する活動を積極的に進めていこうというようなことが書かれております。例えば中学校では、3年生が新聞社の方に新聞作りを教えていただきながら、SDGsについて全員が調べて新聞をつくり、それを発表会ということで、1年生や2年生にそのことについて知らせるようなそういった機会を設けたり。去年の1年生の子たちは、名古屋へ行って分散活動みたいなことをするんですけども、SDGsのテーマが17ありますので、それに沿って見学地を自分たちで決めて、そこで調べたことをまとめて発表するなんていうような会をやっております。草井小学校には、今年で20年目になるビオトープがありますので、そこで外部からの講師の方や、同好会の方々とともに、自然について学ぶような機会を設けております。

なので、SDGsという言葉を知らなかったなんていうことがないように、できるだけ学校の義務教育の9年間の中で、教えていけたらいいなと思っております。ただ、ゼロカーボンという言葉は正直あまり馴染みがなくて、この言葉についての普及みたいなものは、これから少しずつしていかなくちゃいけないのかなというふうに今のお話を聞いて思いました。

○会 長

ありがとうございました。

やっぱり学生さんがそういう活動をするのはすごくいいことだと思うし、小学校でも中学校でもいいんですが、1ブース参加していただいたり、できるといいですね。可能であれば、また校長会の方でもちょっとお話いただけると助かります。

他に何かございませんでしょうか。

○委 員

先ほど、環境フェスタは市制70周年の記念事業とおっしゃいましたが、その先ほどのような感じでイメージを持たれてるのかなと思ひまして。

○事務局

一応、環境フェスタとして毎年開催ということにはならない可能性が高くて、もうちょっと環境フェアぐらいの規模にして、例えばですけど市役所のロビー

あたりで展示するとか、そういったことを他市でもやってるんですけども、次年度以降は、規模を縮小した形で続けていくのかなというイメージです。

○委員

ありがとうございます。先ほどのお話にもあったんですが、やっぱり継続ということがすごく大事で、確かに講座でお話した時やイベントの時って、来た子供たちも、そうだね大事だねってすごく使命感に目を輝かせるようなイメージがあるんですけど、ちょっと時間が経ってしまうとまたなんだったかなみたいな感じになってしまうので、継続していただけたらと思います。

また、来年度以降はフェアとおっしゃいましたが、やっぱり展示だけだとなかなか難しいんじゃないかと思いますので、体験型のイベントで予算がつくような形で継続していただけたらいいなというように感じました。

○会長

ありがとうございました。

継続は力なりっていいますから、ぜひ継続するようにお願いしたいと思いません。

他に何か質問がございましたら。よろしいでしょうか。

では時間も少し早いですけれども、本日の議論はこのあたりで終わりたいと思います。もし話し足りないとか、伝えたいことがあるっていう方や、資料を読んでいただいて何かありましたら、事務局の方に電話でもいいし、直接出向いていただいても構いませんので、ぜひお話いただけたらなと思います。

その他として事務局から何かありますでしょうか。

○事務局

私の方から3点ほど報告ということで、資料に記載をしておりますけれども、まず、EVステーションについて、民間の企業と協定を結びまして、来年度の秋口から年末ぐらいにKTXアリーナの駐車場に充電器を設置する予定になっております。これも国の補助金を活用して設置ということになるので、来年度の補助金が開始されて申請が通ればという前提はつきますけれども、普通充電器を3台ほど置く予定にしております。

また、公用車のEV導入についてということで、これは昨日市役所にリースで電気自動車が本庁に2台、保健センターに1台と、それから配水場に1台、計4台入りました。2人乗りの小さい車ですが、これから市内を走り回りますので、PRをしていただければと思います。またさらに来年度には、予算上では2台、導入が予定されております。

最後に、南部リサイクルステーションの設置についてということで、布袋駅が高架化されまして、その北側の高架下を活用して、来年度の4月7日オープンでの予定で、南部リサイクルステーションが開設されます。特に日曜日開設の要望が多かったので、日曜日を含めて日・月・火の毎週3日間開設ということになります。

また、この2月からリサイクルステーションでの受付方法を、毎回、名前と住所を書いてもらう形から、1回の申し込みで利用者カードというものを発行しまして、そこに記載された番号だけで入場をしていただくという方法に切り換えました。発行するカードには、ゼロカーボンアクション30の27番目の項目がごみの分別となっていますので、それをカードに記載する形で表示をさせていただきます。報告をさせていただきます。

事務局からの報告は以上でございます。

○会 長

ありがとうございました。審議会は、今日で本今年度は終わりですね。

もう、締めさせていただきます。よろしいでしょうか。

○事務局

今年度の審議会は本日で最後ということになります。3回の審議会にご出席をいただきましてありがとうございました。引き続き、委員になれる方がほとんどかと思えますけれども、来年度の第1回目の予定も、もうすでに仮押さえておりますので、8月19日ということで、ご予定をお願いできればと思っております。また時期が近くなりましたら、正式にご連絡をさせていただきますので、よろしく願いいたします。

また、来年度は市制70周年ということで、江南市もバッチを作って、いろいろ70周年をPRしつつ、SDGsもPRしつつ、ゼロカーボンを推進していくという盛りだくさんな年になりますけれども、何卒ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。1年間ありがとうございました。

○会 長

ありがとうございました。では次回につきましても、お忙しいでしょうけれども、また参加していただいて、ぜひいろいろ、いろんな意見をお話いただくとありがたいと思います。

本日は長時間にわたり、いろんな意見を出していただいて本当ありがとうございます。皆さんの意見がないと、ただ聞くだけの審議会だったら、私は意味

がないと思っておりますので、ぜひ次回もよろしくお願いいたします。

それではこれで第3回の環境審議会を終了いたします。どうもありがとうございました。